

■高校野球のケーススタディー（第28回）■



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

高校野球における公式試合や練習試合の中で生じたプレイの中で、“こんなプレイ、ルールではどうなるの？”といった疑問について、ルールの側面から解説します。

○ 打者が投球を避けない行為について（秋季兵庫県大会から）

秋季兵庫県大会でのことです。打者の内角への投球が、ひじをガードしているエルボーガードに触れました。打者は、死球（ヒットバイピッチ）と思い、1塁へ走り出そうとしていましたが、球審はタイムを宣告した後、打者を呼び止めて何か指導をしているようです。さて、何を伝えているのでしょうか。

球審は、打者に投球を避けようとする行為がなかったため、死球（ヒットバイピッチ）とせず、ストライクゾーンの外で触れたため、「ボール」の判定を行いました。

球審は、打者に避ける行為がなかったことや保護具を使って内角の投球に故意に触れようとした行為に対して注意をしたのです。

公認野球規則では、次のように規定されています。

【規則 5.05(b)(2)】

打者が打とうとしなかった投球に触れた場合、アウトにされるおそれなく、安全に一塁が与えられる。ただし、

- (A) バウンドしない投球が、ストライクゾーンで打者に触れたとき
- (B) 打者が投球を避けなくてこれに触れたときは除かれる。

(A) のときは・・・打者が投球を避けようとしたかどうかを問わず、「ストライク」が宣告される。

(B) のときは（今回の事例）・・・「ボール」が宣告される。（投球がストライクゾーンの外で打者に触れ、打者がこれを避けようとしなかった場合）

※ただし、投球の性質上避けることができなかつたと球審が判断した場合には、避けようとした場合と同様に扱われます。（規則 5.05(b)(2)【注3】）

また、日本高等学校野球連盟が定める「大会運営上の留意事項（周知徹底事項）」においても、次のように記載されています。

ヒットバイピッチ（死球）を得るために、投球を避けない打者の行為（投球を避ける動作のないものおよびエルボーガードを投球に対して突き出す行為）は、アンフェアなプレイのため、絶対にしない。

打者がバッタースボックスの内側のラインぎりぎりに立つことは、ルール上問題ありませんが、本来身体を守る保護具（エルボーガードやレッグガード）を利用して「投球を避けない」あるいは「故意に投球に当たりにいく」という行為は、人命にかかわる危険な行動といえます。

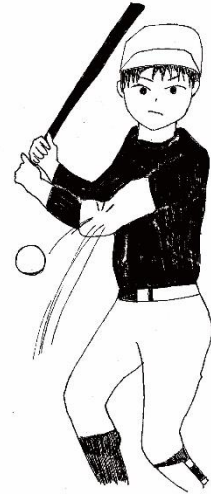
2018年11月には、熊本県内で行われた練習試合で頭部に死球を受けた選手が、外傷性くも膜下出血で死亡するというとても悲しい事故が起きています。

保護具は身体を守るべきものであり、出塁しようとするあまり、それを利用して投球に触れようとする行為は、絶対になくさなければなりません。

当HPの「高校野球のマナーとルールを学ぼう」でも過去3回にわたり、このテーマについて紹介しています。

（第10回ルール編、第89回ルール編、第96回課題1）

このように過去から何度も繰り返し伝達しているように、重要な事項であることを十分に認識した上で、選手はもちろんですが指導者の方も日頃の練習試合から選手の動きをよく見ていただき、春季大会ではこのような事例が発生しないように心掛けてください。



表題デザイン・イラスト協力：兵庫県立姫路工業高等学校デザイン科
表題デザイン：桂 楓杏さん（74回生）
イラスト：野口 真奈美さん（3年）